

## NEWSLETTER

No.44

6 January 2010

・2009年地理学教室の行事記録	・・・1
・第9回地理ワークショップの開催	・・・2
・福島県農村実習について	・・・3
・大学院生のヨルダン活断層調査報告	・・・4
・2009年度地理実習の記録	・・・5
・卒業論文公開口頭試験について	・・・9
・2009年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・10
・春休みにお勧めの一冊	・・・12
・国土館大学地理学会費の納入について	・・・13

### 【2009年地理学教室の行事記録】

1月10日	歴史地理学会例会(10331教室)
2月6日, 7日, 9日	平成20年度卒業論文公開口頭試験
5月3日~5日	福島県農村実習(1)(宮地)
5月6日	野外生物観察会(町田キャンパス:磯谷)
5月24日	野外生物観察会(生田緑地:磯谷)
5月26日~27日	地理学野外実習A(1年生実習)
6月13日	国土館大学地理学会(世田谷校舎10329教室) <講演会> 鈴木倫太郎先生(本学非常勤講師) 「サンゴ礁環境を探る ~生物侵食とサンゴ礁地図の作成~」 <総会> 10号館10329教室 <懇親会> 1号館地下(スエヒロ学生食堂)
6月26日	9月卒業論文公開口頭試験
7月4日~5日	福島県農村実習(2)(宮地)
7月23日	国土館大学地理学会巡検(東京下町低地:長谷川)
7月29日~30日	第9回地理ワークショップ(中央図書館4階AVホール, 多摩地域巡検) 「環境問題を「グローバル」に見る・考える」(磯谷, 内田, 宮地ほか) 参加者40名
8月24日~25日	福島県農村実習(3)(宮地)
9月19日~21日	福島県農村実習(4)(宮地)
9月30日~10月1日	地理学野外実習B(2年生実習)
10月27日~30日	地理学野外実習C(3年生実習)
11月19日	福島県主催の「集落活性化県民検討会」に宮地ゼミの学生が報告者として参加
12月12日	歴史地理学会例会(10331教室)
12月19日	国土館大学地理学会(於世田谷キャンパス10号館10329教室) <講演会> 関戸明子先生(群馬大学准教授) 「グリーンツーリズムによる地域活性化」 <研究発表(実習課題報告)> 高橋麻里亜, 関谷祐介, 関口直人, 岡田翔子, 古山晴香・門倉浩司・奈良場慎一, 阿部智哉, 中馬裕希・伊藤規貴 <懇親会> 1号館地下(スエヒロ学生食堂)
12月24日	世田谷の歴史地理巡検(岡島)

## 【第9回地理ワークショップの開催】

「環境問題を『グローバル』にみる・考える」  
社会科教員のための地理ワークショップ

地理学教室では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、主として中・高の先生方を対象に、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきました。第9回目を迎えた今年度は、7月24日・25日に開催されました。1日目は、中央図書館 AV ホールにて自然地理学・人文地理学の両分野から4名の先生方に環境問題の見方・考え方をお話いただきました。2日目は多摩丘陵方面での巡検を行いました。40名の方にご参加いただきました。

### プログラム

7月24日(金) 10:00~17:20

グローバルなスケールでみる地球環境問題  
ローカルなスケールでみる地域環境問題  
環境問題に対する地域の対応  
環境思想からみた環境問題 「作品」に描かれた環境を読む  
交流会(講師の先生方、参加の先生方と教室スタッフが地理教育の現状と課題を語りました)

磯谷達宏(国土館大学)  
山添 謙(日本大学)  
伊藤達也(法政大学)  
内田順文(国土館大学)



都市のグローバルな大気環境について語る山添先生



環境問題や財政問題から公共事業のあり方を語る伊藤先生

7月25日(土) 10:00~16:30

「多摩丘陵周辺の開発と里山保全」巡検

案内者: 宮地忠幸, 磯谷達宏, 長谷川均, 岡島建, 加藤幸治

コース: 小田急線鶴川駅・集合 寺家ふるさと村 里山景観の特徴と保全の取り組み 図師・小野路地区の里山景観(車窓見学) 鶴見川源流の泉 多摩川と鶴見川の分水嶺(車窓見学) ぐりーんうおーく多摩(昼食) 長池公園自然館(FUSION 長池) 絹の道資料館 パルテノン多摩・歴史ミュージアム パルテノン多摩にて解散



寺家ふるさと村にて多摩丘陵の植生を説明する磯谷先生



長池公園を前で FUSION 長池スタッフと記念撮影

## 【福島県農村実習について】

### 宮地ゼミは「中山間地域農業参画プロジェクト」を実施しました！

宮地ゼミでは福島県二本松市の西谷という山間集落で、年間を通じた農業体験プロジェクト（それを私たちは「中山間地域農業参画プロジェクト」と名づけています）を実施しました。この取り組みは、2008年度の地理学野外実習Cにおいて現在4年生の8名が、この地域の農業や農村の現状と課題について調査をしたことを機に、地域住民の方との「交流」や農業体験に基づいたゼミ生の食料・農業・農村問題の「学び」を目的に行っています。

作業は次のように行いました。まず4月に播種（種まき）作業をした後、5月の連休に田植えをしました。今年うるち米を7a、もち米を5aの水田に作付しました。その後、7月上旬に草取り・追肥作業を、8月下旬に草取り・草刈り・防除作業をし、9月下旬に稲刈りをしました。この間、学生たちは数軒の農家のお宅に民泊をさせていただきながら（いつもおいしい食事とお酒でもてなしていただきながら）作業をしました。10月の精米作業を経て11月の学園祭にて焼きおにぎり、お米（うるち米、もち米）、米ぬかなどを、地元・西谷集落の方々とともに販売し、完売することができました。

この取り組みは福島民報社など地元新聞社に何度か記事として取り上げていただきましたし、福島県地域振興課の方々にも関心をもっていただきました。11月19日には会津若松市で行われた「福島県集落活性化県民討論会」にて3名の学生が、この取り組みの成果と課題を報告しました。佐藤福島県知事をはじめ参加された多くの方から評価をいただきました。現在、来年の取り組みの方向性を、ゼミ生と現地の皆さんで検討し始めています。

（宮地忠幸）

### 「中山間地域農業参画プロジェクト」写真帳



5月の田植えの様子。真剣に植えています。



田植えの後はバーベキューで「大交流会」を実施。



7・8月は草取り・草刈り。地道な作業で稲を育てました。



民泊して現地の方ともゼミ生同士も仲良しに！



稲刈り後にお世話になった集落の方を含めて記念撮影。



集落活性化県民討論会で集落・県職員の方と一緒に。

地理学教室ではさまざまな国際的な活動も行われております。今回は大学院生から、海外調査の感想と写真を寄稿してもらいました。

### 【大学院生のヨルダン活断層調査報告】

こんにちは！地理学教室所属の大学院生の竹内えりです。

2009年11月21日～12月1日の間、長谷川均教授（地理学教室）、東郷正美教授（本学大学院非常勤講師・法政大学社会学部教授）、牛木久雄氏（元 JICA ヨルダン事務所職員）と私の4名で、ヨルダン・ハシミテ王国に調査に行っていました。今回の調査の目的は、ヨルダン渓谷の活断層調査でした。

私自身は、海外での調査と本格的な活断層調査が初めてだったので、不安でいっぱいでした。しかし、実際に現地に行き、地形の観察や試料採取をすることによって、机上ではわからない知識や経験を得ることができ、とても有意義な調査でした。また、活断層の調査だけではなく、日本とは異なった文化に触れることができ、改めて調査の楽しさを実感することができました。



崖をよじ登り、地層を確認中。  
(左から長谷川教授・Mahmoud 博士・東郷教授)



現地の方に、新鮮なきゅうりをいただきました!!  
(左から長谷川教授・東郷教授・牛木氏)

## 【2009 年度地理実習の記録】

1 年地理学野外実習 A : 5 月 26 日 ( 火 ) ~ 5 月 27 日 ( 水 ) 実施

野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実施地 : 川崎市麻生区古沢地区, 横浜市寺家ふるさと村

参加学生数 : 77 名 ( 男子 56 名, 女子 21 名 )

テーマ : 丘陵地の自然環境と人間生活 - 映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く -

目的 : 多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い, 地形と土地利用の関係, 都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて, 地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課題 : 図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート。

提出日時 ... 9 月 18 日 ( 金 ) 1 限「自然環境調査法」授業時間



川崎市麻生区古沢地区にて  
地元の方に話を聞く ( 聞き取り中 )



横浜市寺家ふるさと村にて  
土地利用調査中

地理学野外実習 B ( 2 年生対象 ) : 9 月 30 日 ( 水 ) ~ 10 月 1 日 ( 木 ) 実施

野口

実施地 : 長野県霧ヶ峰高原

参加学生数 : 15 名 ( 男子 11 名, 女子 4 名 )

テーマ : 霧ヶ峰高原を例に, 本州亜高山帯における自然環境を理解する

内容 :

1 ) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系, 「風と地形→積雪と凍結融解→植生」の関係

2 ) 霧ヶ峰高原の地質学的・地形学的位置づけ

3 ) 霧ヶ峰と人的関わり ( 縄文時代から今日まで ) : 黒曜石, 狩場, 採草地, スキー場, 警察犬, ハイキングなど

課題 :

事前の準備 : 次の論文を読み, 霧ヶ峰における気候環境と地形との関係を理解しておくこと。野口泰生 ( 1999 ) 長野県中信高原・霧ヶ峰の気候環境 : 第二次大戦中の山岳測候所資料と最近の現地観測から。国土館大学文学部人文学会紀要, 32 号, pp.47-68。

レポートの提出について : 上記 3 つの文献, 地理実習資料, 現地での説明をもとに, 霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動の役割を説明せよ。

長谷川

実施地 : 神奈川県三浦市

参加学生数 : 8 名 ( 男子 6 名, 女子 2 名 )

テーマ : 三浦半島南部の地形と地質

内容 : 三浦半島南端の海岸線を歩き, 地形と地質を眼で観て触る。

課題 : 20 枚程度の調査記録をまとめる。



長谷川班 ポケットビーチの観察

実は長谷川班はサモアの大地震による津波注意報発令にともないコース変更をよぎなくされました。

## 内田

実施地：静岡県金谷町～本川根町周辺（大井川鐵道沿線）

参加学生数：16名（男子13名，女子3名）

テーマ：風景の鑑賞法と観光地に与えられた意味の解読

内容：大井川上流～下流の自然景観（山と渓谷の風景）を実際に歩いて観察しながら，風景論の基礎，および風景の鑑賞法について実習する．ローカル私鉄である大井川鐵道が，鉄道交通施設（SL・トロッコ列車など）を有力な観光資源として活用している実態を明らかにすると同時に，山間地域の景観や施設が観光資源としてどのように利用されているかを，実際に眼と耳と肌で確かめ，観光地理学および人文主義地理学的視点から考察する．

課題：レポート2本 奥大井渓谷の風景美について，観光地の記号としての風景・温泉・鉄道



内田班 井川線アプトいちしろ駅にてアプト式電気機関車の連結見学中

## 岡島

実施地：千葉県香取市佐原地区

参加学生数：参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：河川交通の役割と歴史的町並みの形成過程 - 佐原を事例として -

内容：佐原市街地における現地調査，伊能忠敬旧宅・伊能忠敬記念館・重伝建地区の見学

課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する．なお夏休みに事前学習を行っている．



岡島班 佐原の河岸を現地調査中

## 磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：6名（男子5名，女子1名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した．

課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる．



磯谷班 縞枯山手前の展望台で昼食

## 加藤

実施地：東京都中央区

参加学生数：12名（男子9名，女子3名）

テーマ：東京都心部における空間利用とその変化

内容：東京都心部における水平的・垂直的な空間利用について，街路別空間利用や施設分布などを，調査することを通して，都心部の空間利用パターンとその変化を捉え，それらの要因や背景を学んでいく．

課題：調査結果に関する図を作成し，調査結果にもとづいた内容についてレポートする．

## 宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：7名（男子6名，女子1名）

テーマ：山村における地域振興策の意義を考える—農村調査法を学ぶ—

内容：山村の地域経済や社会（集落コミュニティーなど）の変化とその要因を把握する一方で，地域活性化へ向けた取り組みの意義を，統計資料の収集や土地利用，施設分布，関係諸機関や関係者からの聞き取り調査などを手掛かりに考察する．実習を通して農山村の調査方法を習得する．

課題：1) 事前学習

1. 次の3編の論文について、内容を取りまとめる。 関戸明子(1994)都市との交流事業による地域活性化 - 群馬県川場村中野の事例 - . 群馬大学教育学部紀要(人文・社会科学編), 43号, pp.173-188. 関戸明子(1993)都市住民との交流によるむらづくり事業の展開. 農業と経済, 第59巻14号, pp.124-131. 中島直子(1992)群馬県川場村における農林業と観光化. お茶の水地理, 33号, pp.45-56.
  2. 川場村ホームページから入手可能な統計データについて、各自、データをExcelに入力した後、図や表にまとめ、そこから読み取れる内容をレポートする。また、現象の変化がなぜ生じているのかについて、可能な範囲で調べてレポートする。
- 2) 事後レポート  
事前学習レポート、現地調査結果(図表、写真を含め)を16,000字程度にまとめる。

地理学野外実習C：10月27日(火)～30日(金)実施

野口

- 実施地：長野県長野市，須坂市，小布施町  
参加学生数：8名(男子7名，女子1名)  
テーマ：1) 地方気象台の役割と気候要素の永年変化  
2) 土地利用と気温分布  
内容：1) 長野地方気象台の見学と長野における気候要素の永年変化  
2) 須坂市と小布施町における気温観測と過去の事例との比較  
課題：各自でテーマを設定して書くこと。卒論を書くための訓練であるから，問題(疑問)を設定し，それについて調査・観測を行い，考察をする。レポートの書き方は「卒業論文の手引き」に準ずる。提出日は12月3日(木)のゼミ授業時間。最優秀レポートは12月19日(土)の国土館地理学会で発表のこと。



野口班 長野地方気象台の見学

長谷川

- 実施地：東京都神津島村  
参加学生数：8名(男子3名，女子5名)  
テーマ：神津島の地形を調べる  
内容：海岸班，火山班，防災地形班に分かれてそれぞれで設定したテーマに沿って調査を実施した。  
課題：20～30枚程度のレポートをまとめる。



長谷川班  
溶岩ドームにて表層地質の観察

内田

- 実施地：沖縄県石垣市とその周辺  
参加学生数：9名(男子6名，女子3名)  
テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う。  
内容例：地域型テーマパークの存在意義について，石垣島における民謡酒場の現状，石垣島の観光イメージ，竹富島・小浜島におけるスーパー利用者の購買行動，竹富島の伝統的住居，石垣島の観光農園，ダイバーズショップ間のコミュニティ形成，石垣島の外国人観光  
課題：各自設定したテーマに従って，現地で得たデータの分析結果をもとに考察を行い，「ミニ論文」を作製する。



内田班  
石垣島随一の観光スポット川平湾

## 岡島

- 実施地：大阪市および周辺地域  
参加学生数：12名（男子8名，女子4名）  
テーマ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査  
内容例：篠山城下町の構造，高槻城下町の変遷，枚方宿と河川水運の変遷，旧岸和田城下町の明治以降の変容，重伝建地区富田林寺内町の現状，祇園の京町家，世界遺産寺院の災害による変化，神戸市兵庫区の地名，北摂三田ニュータウンの計画と現状，能勢電鉄の輸送と課題，和歌山電鐵の現状，木津川市のコミュニティバス  
課題：各自のテーマに従ってレポート作成



岡島班 夕食中

## 磯谷

- 実施地：広島県三次市  
参加学生数：4名（男子3名，女子1名）  
テーマ：里山の生態地理  
内容例：里山地域でみられる動植物の生態地理について，各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは，「二次林（雑木林）の樹種構成と立地環境」および「サギ類の生態地理」であった。  
課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班 標本整理中

## 加藤

- 実施地：鹿児島県出水市  
参加学生数：13名（男子9名，女子4名）  
テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う  
内容例：商店街の現状とPioneer撤退に伴う影響，出水市街地の土地利用，出水市の電機工業の現状，出水市住民の買い物行動 - 衣服購買圏を中心に - ，出水市の労働市場 - 高卒者の進路と求職者の現状を中心に - ，九州新幹線・出水駅の利用者の特徴からみた新幹線開通の影響，出水市における衣服小売業の実態  
課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤班 出水市役所前にて

## 宮地

- 実施地：岩手県二戸市およびその周辺地域  
参加学生数：13名（男子10名，女子3名）  
テーマ：農山村における地域問題を考える  
内容例：雑穀を中心とした農業生産と特産品開発，バス路線の再編成の実態，ツーリズムによる地域活性化効果，集落の立地特性とその変容，民俗・文化の特徴とその商品化の各側面から，岩手県北地域が直面する諸問題を考察する。  
課題：1)事前学習 夏合宿（9月実施）にて，班ごとのテーマに沿った文献3編を紹介した上で，問題の所在，研究目的，研究方法をA3版2枚の配布資料を基に報告する。  
2)事後レポート 班ごとの調査結果を，『卒業論文の手引き』を参照し，24,000字（図表含む）以上のレポートにまとめる。



宮地班 農業集落での聞き取り調査

国士舘大学地理学会巡検：7月23日（木）実施

「東京下町の沖積低地を訪ねて～低地での暮らしと災害からの立ち直り～」

長谷川が担当した東京の下町での巡検ですが、テーマが決まった後はこうした方がよいよ、と企画した3年生にアドバイスしただけです。私がこの大学に入った頃、「学会巡検」は非常に活発でした。春や夏には、泊まりがけで大勢で出かけ、活発に調査をし報告書を作り上げていたほどです。それがいつの間にか廃れてきて、「学会巡検」は教員が企画し、それに乗った学生が、教員のスケジュールに沿ってついて行くという形式に替わりました。それが良いとか悪いとか言うのではなく、私はもっと学生自身が主体的に立案、企画した巡検があっても良いのではないかと常々思ってきました。AO入試で私達の専攻は「自分で立案企画した7日以上旅行をした高校生」を積極的に受け入れようとうたっているのですから、入学した学生にももっと主体的に巡検の立案や企画をしてもらっても良いのではないかと考えていたわけです。

今年の担当役員の学生には、十分に企画力や実行力がありました。7月23日、学生12名と長谷川は両国駅を出発し、徒歩とバスを利用して、安田庭園、横綱町公園、江戸東京博物館、横砂町銀座、横十間川親水公園、小名木川の閘門、深川不動、富岡八幡宮、かちどき橋、月島などを巡り、下町の風物や地形、災害史を探る充実した一日を過ごしました。

企画を担当し、ガイドブックの作成、現地での説明役もかってでた、堀川大輔、関根悟、奈良場慎一、井垣知佳、田信也、永井麻由佳の皆さんは本当にご苦労さまでした。大成功に終わった学生主体の巡検は、きっと皆さんに目に見えない大きなチカラをつけてくれたことでしょう。

（長谷川均）



砂町銀座にて



扇橋閘門

### 【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

**就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。**

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2010年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2010年2月6日（土）9:30～、8日（月）9:20～  
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

**注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：**

試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。

発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）。
3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。

発表では、スライドやOHP、PCプロジェクターも使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（岡島）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続替え等に時間を取られすぎないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。

**3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1,2年生もできるかぎり1日以上出席すること。2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。**

**【卒業論文公開口頭試験日程】**

番号	氏名	主査	副査	題目
2月6日（土） 9:30～10:30 <進行：加藤>				
1	春日 辰範	長谷川	野口	東京湾最奥部における土地利用変化について
2	阿部 真樹	岡島	宮地	地方公共交通機関の現状と課題 - 上信電鉄上信線と伊豆箱根鉄道大雄山線を事例として -
3	須藤 隆行	磯谷	長谷川	神奈川県津久井町城山付近における中型哺乳動物のミクロな分布と行動
10:45～12:05 <進行：野口>				
5	工藤 和也	宮地	加藤	グリーンツーリズムにおける地域活性化へ向けた取り組みと課題 - 岩手県八幡平市を事例に -
6	飯河 あゆみ	加藤	内田	茨城県行方市の美容室の実態 - 全国・茨城県と比較して -
8	数馬 清宏	磯谷	長谷川	神奈川県西部の低標高域における壮齢二次林の樹種構成の地域性
10	木村 厚俊	長谷川	岡島	静岡県南部恵比順島における波食棚の微地形について
13:00～15:25 <進行：磯谷>				
11	坂本 雄太	磯谷	野口	埼玉県東松山市周辺におけるスギ衰退とその要因
12	高橋 由美	野口	長谷川	日本の積雪量（積雪深）の永年変化 - 日本海側の豪雪地帯を例に -
13	戴 志華	加藤	内田	日本におけるアダルト（DVD）ショップの現状と展望 - 一留学生から見た日本のアダルト産業 -
14	保科 佳己	宮地	内田	米価下落における新品種を軸とした米産地の取り組みの意義 - JA にいがた南浦を事例として -
15	市川 拓弘	野口	長谷川	全国における降水パターンの地域性とその経年変化について
17	片岡 将太	加藤	岡島	埼玉県入間市における繊維産業の変遷
21	白石 智洋	岡島	内田	栃木県日光市足尾における観光と地域の変容
25	福島 清	加藤	岡島	首都圏における鉄道利用客数の変化と郊外都市の発展

番号 氏 名 主査 副査 題 目

2月6日(土) 15:35~18:00 <進行:宮地>

31	飯村 竜也	野口	磯谷	長崎県における光化学オキシダントについて
32	中島 翼	磯谷	野口	久慈川本流付近の神社林の樹種構成と宗教の関係
33	山本 直樹	野口	内田	日本における雷雨数の分布と地域性について
35	山崎 甫彦	内田	加藤	施設介護サービス入所者の地域的特性 - 神奈川県厚木市、海老名市、綾瀬市を例に -
38	甘利 尚也	長谷川	野口	山梨県芦川峡における河食ポットホルの分布状況と形態について
39	藤岡 巧	宮地	内田	千葉県旭市における環境保全型農業の存在意義 - 旭地区を事例として -
41	松永 真亮	加藤	岡島	米沢市におけるマンション立地の一考察
42	長谷川 純一	野口	内田	川崎市における大気汚染の現状と交通量の関係

2月8日(月) 9:20~12:05 <進行:岡島>

43	岩部 善徳	宮地	加藤	乳用牛の多頭飼育化が進むなかでの酪農経営の問題と解決への取り組み - 北海道別海町を事例として -
44	原 佳孝	長谷川	磯谷	港湾建設に伴う砂浜海岸の変遷 - 茨城県那珂海岸を例に -
45	岡田 理絵子	内田	岡島	焼きまんじゅうの店舗の広がりについて
48	福島 圭佑	加藤	内田	埼玉県川越市におけるゲームセンターの立地展開
50	向後 知美	宮地	加藤	農産物直売所の現状と課題 - 千葉県の直売所を事例に -
51	武田 慧	内田	磯谷	フリーターとニートの生活と求職行動 - 荒川区町屋を例に -
52	伊藤 恵里子	長谷川	磯谷	琉球諸島における高島と低島の土地利用変化 - 二時期の土地利用図と農林業センサスによる考察 -
53	高野 淳一郎	岡島	内田	モータリゼーション進展地域における公共交通機関の現状と課題 - 群馬県桐生市を例として -
54	柳沢 康二	長谷川	磯谷	沖縄県多良間島でみられるサンゴ礁微地形の特徴

13:00~16:00 <進行:内田>

56	北村 亮	野口	長谷川	日本における日照率の強度分布とその増減傾向について
57	大塩 弘高	加藤	宮地	新潟市清酒製造業の低迷期における取り組みについて - 主に特定名称酒から考察 -
58	鵜飼 あや	野口	磯谷	長野県周辺における気候環境 - 避暑地を例に -
61	飯塚 正樹	長谷川	磯谷	薩摩硫黄島におけるガリ侵食の経年変化 - 1946年~2007年のオルソ空中写真による分析 -
62	目黒 容子	野口	磯谷	神奈川県川崎市川崎区の大気汚染変遷について
67	東 翔子	岡島	宮地	歴史的町並み保存再生による観光地化への取り組みの過程 - 群馬県桐生市を事例に -
70	藤田 朋宏	岡島	宮地	秩父鉄道の性格と発展
74	金城 至洋	宮地	加藤	紅イモの特産品開発による地域経済への効果 - 沖縄県読谷村を事例として -
77	鈴木 敦郎	宮地	岡島	小麦を活用した農商工連携の実態と課題 - 群馬県前橋市を事例として -
81	山口 賢治	岡島	宮地	近現代における城下町起源の都市古河の地域構造

## 【春休みにお勧めの一冊】

諸般の事情から夏休みが短くなった現在、学生諸君にとってもっとも長いのが春休みです。折角の機会ですから、旅行に出かけて見聞を広めることも「地理学徒」としては重要です（その際、事故には気をつけましょう）。また長い休みであればこそ、講義と関係する本を読んでさらに理解を深めたり、また講義とは関係のない本をゆっくり読んで知識を広めたりするには絶好の機会です。とはいえ、「何を讀んだらいいかわからない」という人もいるかもしれません。そこで、何人かの先生から「春休みにお勧めの一冊」を推薦してもらいました。多くが地理学に直接・間接的に関係あるものです。演習の振り分けが迫っている2年生をはじめ、多くの学生に是非1冊くらいは読んでほしいと思います。

本は著者名順に紹介します（値段は参考です。基本的には税別価格（のはず）です）

阿部 等（2008）『満員電車がなくなる日』角川SSC新書，760円。

総2階建て車両の導入，朝晩のラッシュ方向に応じて使い分ける3線運行，着席すべてに立ち席との料金差をつけるなど，「満員電車」を多様な角度から検証し「満員電車をなくす」ことを主張する。運行方法・運賃・制度のイノベーションを提案する。通勤問題を考えるための参考にしてほしい。（岡島 建）

江川達也（2010）地図漫画 脳内散歩地図。『月刊地図中心』2010年1月号，480円。

「地図中心」誌は、国土館大学地理学教室の先輩が編集担当の一人として携わっている雑誌です。この雑誌の最新号が、総ページの70%を漫画にさくという非難覚悟の異例の特集を組みました。近所で見つけた得体の知れぬ階段が、じつは江戸時代の用水の名残であったというオチなのですが、この間に広がる妄想を、多数の新旧地形図で語る展開になっています。漫画に登場する「アシスタントの水野遥」という江川達也氏にツッコミを入れるキャラクターは、前述の先輩なのかもしれません。

TVで「タモリ倶楽部」の地図ネタや、「ブラ・タモリ」を見ている人は必見かな。ちなみにこの雑誌は地理実習室で閲覧できます。また、世田谷キャンパスの近くからバス一本で行ける「日本地図センター」の売店でも買えます。この漫画は、この雑誌で連載されるそうです。楽しみです。が、收拾が付かなくなるのではないかと、余計なことを心配しています。（長谷川均）

大和田順子・水津陽子（2008）『ロハスビジネス』朝日新聞社（朝日新書097），720円。

ロハスという言葉を知っていますか？「Lifestyles of Health and Sustainability」の頭文字がLOHASなわけですが、これは「大量生産・（大量流通）・大量消費・大量廃棄」に特徴づけられる20世紀型生産システムに対する新たな社会観として位置づけられそうです。本書はこの考え方を、運動論としてだけではなく、それを「ビジネス」として、今日の資本主義社会のなかにどのように普及、展開しうるかが論じられています。さらには地域の振興策の方向性にも言及されていますので、現代の地域問題に関心のある方に一読をお勧めします。（宮地忠幸）

唐沢一友（2008）『多民族の国イギリス』春風社，2,000円。

英語・英文学者が書いた本ですが、内容はイギリス地誌。イギリス史などちょっと馴染みがないので難しく感じる場所もあると思いますが、本の宣伝文句「国の構成、国旗、紋章、英語。親しみやすい切り口から、奥深いところへ。」という意図がうまく消化されており、全体に読みやすい本です。個人的には「英語」の成り立ち・性格に関しては多くのことをこの本から学びました。

この本はイギリスの正式名称というところから話が始まりますが、地理・環境専攻の皆はサッと答えられますよね！？ ちょっとあやしい人は必読！かな？（加藤幸治）

河合雅雄・林 良博編著（2009）『動物たちの反乱 - 増えすぎるシカ，人里へ出るクマ - 』PHPサイエンス・ワールド新書，880円。

イノシシ，シカ，サル，クマ……。最近のニュースで、野生動物による被害がよく話題になりますね。人里に現れる動物について、最近、とてもよい新書本ができました。国内のいろいろな動物についての最新の話題が、バランスよくとりあげられています。内容もしっかりとしています。動物の生態地理に関する本ですが、農山村の地理を学ぶ人や環境問題に関心のある人にも必読だと思います。（磯谷達宏）

野口悠紀雄（2008）『戦後日本経済史』新潮社（新潮選書），1,200 円。

「超整理法」で有名な著者が書いた「本職」の方の話。現在の日本の地域について考えていく上で、戦後の日本経済の展開を知っておくことは重要です。話は「バブル」や1990年代後半の「金融危機」といった「身近」なところにまで及びますので、そうした知識習得のための入門書としてお勧めの本です。加藤ゼミ3年生の有志と読んでみた限り、ちょっと難しいという印象を受けた人も少なくないようでしたが、「普通」にそれなりの会社に就職したいな、なんて考えている人は、このくらいのことは理解しておかないと……、と思います。繰り返し読んで理解できればそれでよいので、まさに長期休みにトライすべき本といえるでしょう。（加藤幸治）

山崎養世（2009）『高速道路無料化 - 新しい日本のつくり方 - 』朝日文庫，620 円。

高速道路はなぜ有料なのか？ 高速道路を無料にすれば、自動車はその目的に応じて一般道と高速道路を自由に選択でき、日本の自動車交通、さらには流通全体が効率的に展開し、日本の構造を変革できる。民主党も掲げる「高速道路無料化」は「千円高速」とは次元の違う話だ。（岡島 建）

#### 【国土館大学地理学会費の納入について】

下に掲げる者は、国土館大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払いください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うこととなりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国土館大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

Web 版では非掲載にしています

**重要事項！必ず読むこと！**

研究室，図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前(2月初旬)までに必ず返却して下さい。  
4年生で未返却の者は，卒業資格を満たしていないとみなします。